

環境研究総合推進費 令和7年度中間評価個票

研究課題番号	5MF-2401
研究課題名	生体・環境試料の網羅分析に基づく作用・構造類似化学物質の複合曝露影響解析
研究実施期間	2024（令和6）年度～2026（令和8）年度
研究代表機関名	千葉大学
研究代表者名	江口哲史

1. 評価結果

評価ランク：A

2. 委員の指摘及び提言概要

高分解能質量分析法を用いて血清などの生体サンプルおよび室内環境試料の化学物質分析を網羅的に行い、スペクトルの類似性に基づいた化合物探索と作用機序の近い化合物の探索から複合曝露影響解析を進めている点が新規性に富んでおり高く評価できる。概ね計画通り化学物質の曝露影響解析を進めながら学会発表や論文発表も行っており、また環境行政への貢献も期待できる。Non Target 分析法の確立と展開の仕方によって、本研究における臨床サンプルや取得データの価値が大きく左右されるが、現段階では方法論が確立されたとは言えない状況であることから、目標達成のための課題が残されている状況であると考えられる。また、曝露と影響の因果関係を証明するためには、大規模コホートや縦断的データを用いた検証も必要であると考えられる。